

先日の「劇場ごっこ」には、たくさんの方々に見に来て頂きありがとうございました。子どもたちと一緒にとても楽しいひと時を過ごすことが出来ました。年長児を中心に3・4・5歳児で取り組んだ『森は生きている』の劇。子どもたち一人ひとりが、やっていて「楽しい」、「もっとやりたい」という意欲を持って取り組んでただけあって、あんなに長く難しい劇でも3・4・5歳児でやれてしまうんだと、改めて子どもの「意欲」や「思い」に寄り添った取り組みの大切さを感じた劇場ごっこでした。

早いものでもう3月。いよいよ、つくしさんたちは卒園の時を迎えます。残り少ない園生活を思う存分楽しんで卒園して行ってほしいなと思います。

さて、私たちは、子どもたちに「未来を生きる力」を身に付けて行ってほしいと考えていますが、「未来を生きる力」、すなわち「子どもたちが大人になる頃に必要になってくる力」とは、具体的にどんな力だとお考えになりますか？

ご存知のように、近年のテクノロジーの進化は目覚ましく、パソコン、スマホ、インターネットなどが急速に普及し、今は正に「情報革命の時代」です。世界で起きていることが瞬時に情報として世界中に伝わりますし、簡単なことから高度なことまで欲しい情報は、検索すればたいいていのものを手に入れることが出来、高度な計算なども簡単にこなしてしまいます。家にいながら様々な買い物さえ出来てしまいます。毎日毎日、世界中から情報が溢れていて、本当に必要な情報を選ぶのに苦労するような時代です。こうしたテクノロジーの進化により、今の子どもたちが大人になる頃には、「今ある仕事の半数以上が無くなってしまい、今は存在しない全く新しい仕事がどんどん生まれてくるだろう」と言われています。そんな時代でも通用する能力とは？

世界的に有名なGoogleという会社の採用選考においては、すでに「学歴、経験」は不問になっており、それよりも、「自分の意見がしっかり言えるかどうか」とか、「みんなで協力して仕事ができる人材かどうか」が重要視されているそうです。また、採用後においても、「業績や成績」よりも「自主的に行動を起こせたか」が大切にされるなど、これまでの一般的な企業とは「求められる人材」が変わってきていることがわかります。こうした企業等が今後増えてくれば、学校教育のあり方もきっと変わってくるでしょう。これまでの学校教育の主流は、知識の量が重視され、詰め込み型の学習で、いかに多くの知識を身に付けるか、あるいは、繰り返し計算を行ない、高い計算力を身に付けることなどが重要視されてきました。しかし、これらは、どんなにがんばってもコンピューターにはかないません。もちろん、基本的な読解力や、コンピューターを使いこなすための最低限の知識、計算の方法等は理解しておく必要があるのですが、勉強が無意味だといっているわけではありません。ただ、これからの子どもたちには、ぜひともこの先、コンピューターがどんなに進化したとしても、コンピューターには出来ないであろうこと、すなわち、「人間だけが持つ力」を存分に伸ばして行って欲しいと思います。

それは、いろんなことを「想像（創造）する力」、「豊かな感性」、そして「表現する力」などです。もちろん、人と人がつながっていくためには「思いやり」や「愛情」、「チームワーク」も欠かせません。このような力を育てていくために、今の子どもたちに何が必要なのだろうと考えると、やっぱり子ども時代の「遊び」が大切だと思います。いろんな研究者も、10歳ぐらいまでの自然体験や遊びがとても大切だと言っています。重大な犯罪を犯した人たちに共通していることは、「幼少期の遊びが欠落していたこと」、「しっかりと愛情を注いでもらった経験がないこと」などともいわれています。

戸外でかけまわって体を存分に使って遊び、水、砂、泥んこに触れ、散歩に出かけて自然のなかで五感を鍛え、感性を磨き、友だちとごっこ遊びをしたり、積み木やブロック、粘土などで自分のイメージしたものを形にしたり、すぐれた絵本やお話に触れ、絵を描いたり、歌ったり、劇遊びを通して表現したりと、わたしたちの保育園の生活で大切にしていることが、子どもたちの「未来を生きる力」を育てていくと信じています。